

## 第 1 回高岡市復興会議 議事録

開催日時：令和 7 年 11 月 18 日(火) 午後 4 時 30 分～午後 6 時

場 所：議会棟 第 1 委員会室

出席者：復興会議委員 出町会長、米谷副会長、上見委員、大西委員、川上委員、坂委員、塩谷委員、高田委員、高畑委員、立野委員、蜂谷委員、八坂委員、吉川委員（13 名全員出席）

事務局 都市創造部震災復旧推進課ほか

### 1 会議での報告事項等（別添資料のとおり）

- ・高岡市復興会議の設立趣意
- ・被害の状況と復旧・復興に向けた取組み、課題
- ・新たな復興計画の策定の枠組み
- ・これまでの様々な意見、地域での活動等
- ・新たな復興計画の策定スケジュール、計画の柱、構成案

※以上、事務局より資料に沿って説明

※会長の指名により、副会長に米谷委員を選出。

### 2 委員意見の発言要旨（主なもの）

- ・復興の目指すべき姿を委員と共有して、まちの 20～30 年後を考えて計画を策定していくことが重要。20 年後の人口がどうなるかなどを考えて、計画を策定しては。
- ・「若い人」たちが参加することで、魅力あるまちができる。
- ・将来まちがどう変わっていくか、「絵」を示すことが重要。全域で「絵」を示すことが難しければ、議論を前に進めるため、特定の場所の「絵」でもよい。
- ・まちに住んでもらえるよう、空き地を整理して区画整理を実施してはどうか。
- ・空き地・空き家が増え、夜も暗いため、防犯面で不安がある。こどもが遊ぶ姿も見かけるが、安全に遊べるよう、警察や消防との連携も必要。
- ・まちが暗いという意見もあるため、イルミネーションをしてはどうか。
- ・行政ばかりに頼らずに、NPO など、まちづくりを行う母体を立ち上げては。

### 3 次回（第 2 回復興会議）に向けて

- ・課題、論点を整理し、3 月中を目途に第 2 回の会議を開催予定

#### 4 委員意見（詳細）

	主な発言内容
委員 A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何を達成すれば復興といえるのかという目標を定める必要がある。</li> <li>・震災前の状態に戻るのが良いかもしれないが、伏木の 20 年後、30 年後の人口推計と人口構成が共有されないと、目指すべき復興の形が決まらず、議論が進まないのではないか。</li> </ul>
委員 B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係者をいかに増やしていくか、具体的にはどうやって若い人にまちづくりや復興を伝播させていくかを検討すべきである。</li> <li>・復興に係る費用の財源として、地元の企業を巻き込んで働きかけては。</li> <li>・高岡市の復興計画の特徴は、東京科学大学と富山大学が参画しているところである。学生の力を活かして様々な意見を吸い上げて、学生目線の新しい創造や知識を復興計画に組み込んでほしい。</li> <li>・大学のまちづくり活動の意見（「伏木の今と未来創造マップ」など）は復興会議にどのように共有されるのか。</li> </ul> <p>（事務局回答）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今の段階で、大学がまとめたのは住民意見をまとめたもの。今後も伏木でのまちづくり懇談会を開催し、より具体的なまちづくり構想案を取りまとめる予定である。大学からの意見と、復興会議での意見の両方を取り入れて、この復興計画案を作成する。</li> </ul>
委員 C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・液状化の被害が大きかった地区に住宅等を再建するのは難しい。再建可能な地域を限定し、その地域を優先的に整備してはどうか。</li> <li>・液状化リスクを踏まえ、伏木地区内の地震被害が少なかった地域へ移動することも選択肢として検討しては。</li> </ul>
委員 D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の復興会議設置はありがたい。住民にとっても心強い。</li> <li>・転出者が伏木に戻ってくるのか、空き地がどうなるのかを、住民は心配している。それらの心配を払拭するためにも伏木の 10 年後 20 年後 30 年後のビジョンを提示し、官民一体で取り組むことが大事である。</li> <li>・伏木の財産として、勝興寺をはじめとした「歴史と文化のまち」、「クルーズ船が寄港するまち」、「自然豊かなまち」、けんか山をはじめとした「伏木愛が強いまち」、これらをキーワードにビジョンを構築したい。</li> <li>・地域から挙がった意見として、まず、空地进行区画整理して安価であっせんしては。現代の生活様式にあった区画整理を行い、安価であっせんすれば、戻ってくる方や新規移住者が増えるのではないか。</li> <li>・空き地に店舗や公民館の代替として集合施設を建設してはどうか。</li> <li>・交通手段として、地域バスの導入を検討してはどうか。</li> <li>・小学校統合後の伏木小学校跡地を伏木の歴史を語れる「歴史館」や震災から</li> </ul>

	<p>の復興を示した「復興館」に転用し、人が集える施設にしてはどうか。</p>
委員 E	<ul style="list-style-type: none"> <li>・復興に当たっては、地下水位低下工法による液状化対策が必要と思うが、実施の検討に長い時間を要するため、復興まちづくりの検討と並行して考えていきたい。</li> <li>・今後の会議は、伏木の被害が大きかった地域を見学して開催してはどうか。</li> <li>・転出者のうちどれくらいの方が伏木での再建を望んでいるか、市で把握しているか。</li> </ul> <p>(事務局回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・転出された方の意向は、市では正確には把握はしていないが、昨年、東京科学大学と富山大学がワークショップを開催した際に住民アンケートを行っており、その結果では 200 人中 8 割が「引き続き伏木に住みたい」と回答されており、2 割は転居の意向があった。</li> </ul>
委員 F	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公費解体等により多くの方が転出していった。公民館が公費解体でなくなったこともあり、住民間のコミュニケーションがとりづらくなっている。</li> <li>・事務局より 8 割の方が住みたいとアンケート回答があったとのことだが、現実的とは思えない。もっと少なくなるのではないか。</li> </ul>
委員 G	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伏木はとてもいいところ。特に祭りは、地域コミュニティに参加するきっかけになり、子供達も「大きくなっても伏木に残りたい」「祭りを自分の子供にやらせたい」と言っており、伏木が大好きである。</li> <li>・震災後、自分が伏木のためにできることはなにかと考えていたが、個人で声を上げて出来る事が少なかったため、この会議で、具体的事業の実現に向けた準備、特に費用面について情報提供をお願いしたい。</li> <li>・伏木のにぎわいに関する問題点として、勝興寺やクルーズ船の寄港など、集客の機会があるにもかかわらず、地域のにぎわいや経済効果に直結していないことだと考えている。</li> <li>・伏木駅前、震災後に店舗が少しずつ開業してきた。この流れが止まらないよう尽力したい。</li> </ul>
委員 H	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消防団では、発災後から夜警や巡回をしているが、空き地や空き家の増加により、防犯面の不安がある。消防団の活動だけでは追い付かないため、消防署や警察と連携を取るなど、防犯活動に協力してほしい。</li> <li>・空き地で子供が遊んでいるため、危険箇所の立ち入りを制限するなど対応してほしい。</li> <li>・大雨が降った際に、伏木駅前が床下浸水していたため、復興計画では用排水路の整備についても検討してほしい。</li> </ul>

委員 I	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伏木に戻りたい方をどのように戻すのかを検討する際には、高岡市立地適正化計画が参考になる。この計画は、生活サービス機能を計画的に配置することで一定の地域への人口密度集約を目的とした行動計画であり、日常生活に必要な施設（スーパー、病院、銀行等）、移動に必要な公共交通の視点で取りまとめている。復興計画と目的は異なるが、まちづくりへの考え方は同じである。</li> <li>・復興計画に取り入れた事業は、着手できるものからすぐにスタートすべき。成功事例は、他地区で横展開し、全体に広げてほしい。また、事業への取り組みにより地域が変わっていく過程を内外に発信してほしい。</li> </ul>
委員 J	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉の視点から、さまざまな立場に合ったネットワークを構築することが重要。具体的には、障がい者や経済的困窮者、ひとり親家庭、高齢者など日常生活の中で困難が多い方への個別支援、見守り等を行うケアネットの立ち上げ、包括支援センターや介護事業所等に勤務する福祉専門職同士の交流を促進していきたい。</li> <li>・また、社会福祉法人が企業、株式会社、NPO 法人と連携することで地域の安心づくりにつなげたい。</li> <li>・それを実施するには費用面で課題があるため、支援してほしい。</li> <li>・被害が大きかった地域での介護認定を受けている方、障害者手帳を持っている方の震災前後の増減を調べれば、色々と分析できるかもしれない。情報として提供いただきたい。</li> </ul>
委員 K	<ul style="list-style-type: none"> <li>・液状化対策について、地下水位低下工法よりも直接、敷地の地盤改良の方が効果的である。</li> <li>・まちづくり懇談会で作成した地図（伏木の今と未来創造マップ）だけでは、なかなか動かない。現実的かつ具体的施策を話し合うべき。</li> <li>・転出者全員が戻ることはないため、30～40 年後を見据えた、地区外から人を呼び込めるような魅力的なまちづくりを行うべきである。</li> <li>・現在、公費解体していない宅地も将来的に住む方がいなかった場合は、空き家になる。行政が住民と協議し、空地・空き家に公園を整備する等、区画整理と住宅街としての魅力向上を併せて行っていく。</li> <li>・3 回目、4 回目の会議で、具体的なまちの絵を提示すべき。それを見ないと、建て替えるのか、お店を出すべきか今後の方向性が定まらない。いくつかの案を提示してもらわないと委員も善し悪しを判断できない。</li> </ul> <p>（他の委員より）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域全体の絵を示すことが難しい場合は、スモールリノベーションとして、特定の地域のものでもよい。それを参考にして、他地区であればこれができるという議論が進むと思う。</li> </ul>

委員 L	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民からは、自宅の修復もままならないのに復興やまちづくりなど考えられないという意見も聞いている。まちが暗いという声もある。そのような思いを受け止め、市や地域の関係者が伏木の復興に向け地道に取り組んでいることを伝えるために、例えば将来への希望のシンボルとしてイルミネーションなどを行ってはどうか。</li> <li>・伏木小学校には、将来の人材育成を目指した明治からの歴史、誇りがある。統合による新しい伏木小学校は、その歴史や誇りを継承した魅力ある学校にしてほしい。</li> <li>・若者に復興に参画してもらうことや、飲食店経営者を応援する雰囲気づくりが必要である。</li> <li>・行政ばかりに頼るのではなく、投資してもよいと判断してもらえるような魅力あるビジョンをまずは示す必要がある。</li> <li>・NPO 法人や一般財団法人など法人格をもった団体を、市や国から資金面で支援受けられる母体として地域で設立し、団体主体で復興への取り組みを行う仕組みを構築したい。</li> <li>・全体が集まる復興会議とは別に、委員で勉強会等を開催することなど、了解いただきたい。</li> <li>・液状化対策にもなる自然排水が可能な用排水整備を、ビジョンに組み込んでほしい。</li> <li>・高岡市が脱炭素先行地域に認定されていることを活かし、伏木でも脱炭素に関する取り組みを行い、国から資金面での支援を受けられないか検討しては。</li> </ul>
------	---

以上